



共同通信



2008年8月2日 144(354号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 44 『みちくさ』

私は、新沢としひこさんの曲が大好きです。いつも元気をもらっています。

初めて新沢としひこさんに出会ったのは、十数年前の夏の保育研修会でした。大きな舞台に、ピアノが1台。どんな人がでてくるのかなぁ？パンフレットに名前があるものの、どんな人物か全く知らなかったのです。舞台にライトがあたりついに登場です。あの猫背姿でトコトコと舞台の真ん中へ。そしてなぜかただ登場しただけなのに会場は、笑いがいっぱいでした…。りっぱなグランドピアノがあるにもかかわらず、いつになっても弾かず、歌わず、ひたすらおしゃべりが続きます。でも！そのおしゃべりがとっても楽し

いのです。もう笑いっぱなしの時間でした。ピアノの存在を忘れかけていたころ、ついに歌い始めたのです。

世界中の子どもたち、はじめの一步 などなど…。その時からどんどん新沢としひこワールドに引きこまれていきました。本当にあんなに楽しい研修会は初めてでした。そのときから私は新沢さんのファンです！

その後、阪神大震災があった年の9月に行なわれた兵庫区大会でのミニコンサートでも、楽しいおしゃべり、すてきな歌に励まされ元気がでたのを覚えています。

結婚して、東京から西宮に引越しし、時期的に入園受付が終わっていたため、あわてて長男の幼稚園を探 1

しているときのこと。はずかしがり屋で初めてのところではなかなかすぐに遊び出せない慎重派の息子が、園庭で遊んでいたプレさんと一緒にどろんこになって遊び始め、「帰らない！」とまで言い出しました。他の幼稚園を見にいったときは足にまとわりついて離れなかったのに・・・。共同幼稚園。ここに決めた！ということ。ここから共同幼稚園との出会いがはじまりましたが、入園案内をみてびっくり。新沢さんの歌詞が所々に載っていたのです。運命的なものを感じました。私の方が入園させていただいてワクワクしたくらいです。

長男は覚えただけの歌をいつも妹に聞かせてくれました。妹は入園前から童謡より新沢さんの曲のほうをたくさん知っていて、びっくりしたこともありました。

そして、長男が年長、長女がぼっぼのとき、なんと礼拝堂で「新沢としひこコンサート」が開かれることになりました。そしてもちろんチケットを購入、実行委員もやらせていただきました。十数年前一緒に行った友

達にも声をかけ、新沢としひこさんの再会となりました。やっぱり、猫背姿でトコトコと登場！

友達も大興奮で、久々に、とっても楽しいコンサートを体験しました。その後も友達とは新沢さん話で大盛り上がりでした。

新沢さんの歌は、子どもたちが歌っている曲はもちろんですが、私は「みちくさ」が大好きです。子育てで悩んだりしたとき、この歌を思い出し、ゆっくりいこう！！大丈夫！！と、いつも焦ってすぐにいっぱいいっぱいになってしまう私を落ち着かせてくれる、すてきな歌です。

あせらない～あせらない～です。

他にも新沢さんの歌は、素敵な歌がたくさんあります。ぜひ聞いてみてください。ちびっこが楽しく笑顔で歌う曲を、これからも聞かせてほしいなと思います。

(山本 智子)

日本基督教団西宮公会集会所案内

早天祈禱会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会集会所
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会礼拝堂
聖書研究祈禱会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第2火曜日午前10時から	於：西宮公会集会所

あるときなど感極まった司祭がかりに世界中のすべての病と世界中のすべての戦争、世界中のすべての悪があるひとつの小罪を犯すことを許したとしても、その小罪を犯すべきでないと言いつつ放った。道理に合わない話である。

(「ジェームス・ジョイス『エドナ・オブライエン』)

マタイ福音書では、“天国”のことがイエスによって繰り返し言及されます。この世の現実に対して、もう一つあって欲しい現実、即ち神の理想の世界のことが天国として考えられていたかもしれません。マタイ福音書は、天国についてそれにふさわしい者と、ふさわしくない者がいることを繰り返し言及します。その時代のその時、多くの人たちは、決まった約束事を果たしておけば、自分もまた天国にふさわしいことを疑問に思ったりしませんでした。その場合の約束事の一つが、安息日の順守だったりました。「そのころ、ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べ始めた。パリサイ人たちがこれを見て、イエスに言った『ごらんなさい、あなたの弟子たちが、安息日にははならないことをしています』」(マタイ福音書12章1、2節)。このやりとりで、イエスは腹ペコであるなら、時を選ばず麦の穂を摘んで食べる(パンを食べること)、即ち「安息日を破る

こと」を良しとし、更に「人の子は安息日の主である」と宣言したりもします。その人が、天国にふさわしいかどうかは、安息日の順守に左右されない、というのがイエスの理解でした。

そんな一方で、マタイ福音書は繰り返しイエスの口を通して、天国にふさわしい者とふさわしくない者との“差異”に言及しています。「また天国は、海におろして、あらゆる種類の魚を囲みいれる網のようなものである。それがいっぱいになると岸に引き上げ、そしてすわって、良いのを器に入れ、悪いのを外に捨てるのである・・・すなわち、御使たちがきて、義人のうちから悪人をえり分け、そして炉の火に投げ込むであろう。そこで泣き叫んだり、歯がみしたりするであろう」(マタイ福音書13章47～50節)。たとえば、安息日の順守という、その時代に重要とされた約束事を条件から外したはずなのに、獲られた魚の良し悪しをえり分け、一方は捨てられる、それがたとえであったとしても、“悪人を 3

えり分け、そして炉の火に投げ込む”というのはかなり極端です。この場合も“義人のうちから悪人をえり分ける”ことに、強くこだわります。マタイによる福音書25章14～30節でも、同じことが問題になっています。主人から財産を預けられた人のうちの2人は、その財産を2倍にして返します。残りの1人は、預かった財産をそのまま主人に返すのですが、「・・・この役に立たない僕を外の暗いところに追い出すが良い。彼は、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。」と、切って捨てられます。そのようにして、悪い怠惰な僕の“怠惰”が決して赦されない一方で、「よい忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」と、“極上”の評価を受けます。13章では、安息日の順守を条件から外してしまうのに、25章では“投資能力”をその人を判断する条件にします。この違いは、なんなのだろうか。

どんな時の、どんな場合の人の考え方であっても、状況に大きく左右されます。左右されるものだと思います。安息日に麦の穂を摘んで食べて約束を破ってしまった弟子たちのことで、イエスはその時の状況に左右されるということはありませんで

ることで攻撃を退けます。そして「人の子は安息日の主である」とさえ口にします。同じマタイ福音書でも、25章14～30節のイエスは、人を“良い”と“悪い”に二分して評価します。“良い忠実な僕”と“悪い怠惰な僕”という具合にです。この場合の“良い”“悪い”は、主人から預かった財産の投資能力によって決まっています。このたとえば、投資能力を問い、そのことで人を“良い”と“悪い”に二分することだけが目的ではないとしても、平板で了見が狭いことに変わりはありません。

1人のイエスが、洞察し知恵を働かせることもあり、平盤で了見が狭かったりすることが、あり得ない訳ではありません。しかし、12章のイエスがより実像に近いイエスであるはずで、そうであるはずのイエスが、マタイ福音書の“事情”で25章のような描かれ方もするというのが、聖書であるように思えます。

(菅澤 邦明)

「春から夏、そして、夏本番！！」

昨年よりも少し早かった梅雨入り。私は雨が嫌いです。でも先月号でも紹介した畑、この畑には雨が必要です。みんなで植えたさつまいもの苗、空からの恵みである太陽ともう1つ大切な雨、これがないと大きく育てはくれません。そんな自然の恵みをたくさん受けて日々大きく育っています。

子ども達は雨が嫌いではありません。かと言って好きなのかと聞かれたら・・・です。雨だから朝気分がのらなくて～という子や雨が楽しくて傘をさすのを忘れて幼稚園の門から園舎までの道のりを楽しんでいる子、その道のりで出くわすのが大小さまざまな水たまり。子ども達はこの水たまりが好きなんですね～。そっちへ行くと遠回りなのに～という方へ水たまりがあるからという理由でわざわざ遠回り。「ほらほら早く～」と言いながらも、子ども達が嬉しそうに水たまりの傍を通ったり、片足ずつゆっくり足を入れたり、何の抵抗もなくドボン！と水たまりに入っていたりと、その子その子によって様々ではありますがその光景が可愛くておもしろくて、ついつい微笑ましく見てしまうこともありました。雨と言えば・・・公同幼稚園では梅雨の間たくさんのカエルがいたんです！カエルの～うたが～と雨に負けな

いぐらい元気いっぱいのカエル達！全クラスで集まったりすると、カエルの部分をクラスの名前に変えて

のうたが～楽しんだりもしています。時には私達教師も先生達のうたが～と歌い、元気がないとやり直し～と子ども達から言われたりと子ども、教師共に楽しむことができたカエルに感謝です！

さて、予定されていたよりも少し早い梅雨明けだった今年。梅雨明け発表の前から少しずつ聞こえていたセミの鳴き声。幼稚園ではジーとい鳴き声がずっとしていて、クマゼミはシャンシャン鳴くしアブラゼミはジーと鳴くけど何か違うし～と悩んでいたところ、「きっとクマゼミが鳴く準備してるんじゃない～？」と教えて下さった「長老」の先生。えー！？毎年聞いているはずなのに今年はやけに耳について気になったジーという鳴き声。クマゼミだったみたいです！ジーと鳴いていたかと思おうとシャンシャンと鳴き始め、おぉー！と1人感動です！でもまだまだ本格的にとはいきません。声だし出し、発声練習のようなものですかね～徐々に鳴き始め、いよいよ夏本番といったようにシャンシャンとそれはそれは勢いよく何十匹いるのか分からないぐらいの大合唱！！朝に鳴いたクマゼミはお昼を

過ぎた辺りから休憩に入りアブラゼミとバトンタッチ～！アブラゼミの鳴き声も徐々に聞こえ始めています。これからもっとアブラゼミの鳴き声もたくさん聞こえてくるんでしょうね～。

話は7月上旬に戻ります。まだまだ梅雨真っ只中！そんな7月5日(土)、2008年度のほしまつりが行われました。午前中は幼稚園の子ども達だけの特別な時間。初めての体験の3歳児、2回目となる4歳児、3回目で今年で最後となる年長ぐみの子ども達。そんなそれぞれの子ども達、それぞれが色々な思いを持って午前中の時間を過ごしたと思います。ここ1、2年ぐずぐずした天気が続いていたほしまつり。そんな時も午後には奇跡的に晴れて、笹も花火も上がりましたが今年は久々に晴れ！でも暑いなのなの！！それでも午後の部が始まる5時よりもだいぶ前から

門の外には長い列ができていて、スタートしてから実にたくさんの方々にお越し頂きました。久々の再会、懐かしい顔にも会うことができ、いいお天気のもと、今年も無事に笹と花火が上がって、2008年度のほしまつりを終えることができました。ほしまつり、子ども達の為に随分前から準備をして下さっていたのは他でもない幼稚園を中心とするお母様方。当日は役員の方を中心に他のお母様方にもお店のお手伝いをして頂きました。みんなで創り上げたほしまつり、子ども達、お母様方、共同幼稚園に足を運んで下さる方々、そして私達教師も一員となって、この日に関わった全ての人達で創り上げられた1日だと思います。地域の方々のおかげとご理解のもと、今年も無事にほしまつりを終えられたことに深く感謝致します。

(水田 有希)

聖書研究祈祷会

毎月第1、第3水曜日午後7時から、場所は西宮公会堂集会室です。8月は休会、9月は3日、17日になります。

聖書はキリスト教の神のことを、人の言葉で語ってみようとした試みです。

そんな試みで残された聖書の言葉は、当然あれこれ難解だったり、神の前に立つことを拒む人というものに呆れ返ったり、生々しかったりしますが、“神の前に立つ一人として謙虚に生きる”ことと、その意味を、言葉を尽くして語ろうとします。じっくりと腰をすえて聖書を読むのが、西宮公会堂の聖書研究祈祷会です。

2008年8月 あんなこと こんなこと...

- ・ 7月 19日(土) 終了式
- ・ 7月 30日(水) ~ 8月3日(日) 共同子ども沖縄キャンプ
- ・ 8月 18日(月) ~ 20日(水) 幼稚園教師研修会
- ・ 8月 23日(土) 夏期保育開始

にしきた商店街...

- ・ 8月 3日(日) 津門川川掃除
7月の川掃除には関西学院大学成全寮の学生約20人が参加しました。
- ・ 8月 3日(火) にしきたLALALA ミュージシャンコンテスト
西北活性化協議会(アクタ西宮振興会、にしきた商店街、兵庫県立芸術文化センター)の主催する西北の音楽祭です。
場所: アクタ西宮 大学交流センター
- ・ 8月 5日(火) 西北街づくり協議会
- ・ 8月 6日(水) にしきた商店街事務局会
- ・ 8月 8日(金) 西北活性化協議会
- ・ 8月 26日(火) にしきた街舞台実行委員会

アートガレーヂ

- ・ 8月 5日(火)、19日 丹波野菜市
- ・ 8月 25日(火) ~ 30日(土) “キャンプ・子ども” 写真展
- ・ 8月 27日(水) 教会学校組み木教室

関西神学塾

- ・ 8月 21日(木) ~ 22日(金)

関西神学塾・「教会と聖書」共催夏期合宿

~ 講師と講義 ~

桑原重夫さん

「“使徒行伝”の転換期から、教会発足時の『正統』を問う!

~ “関西神学塾”からの発言~」

北村慈郎さん

「キリスト教イデオロギー批判を課題として

~ 既存の制度的教会に留まりながら ~」

教会学校から

《7月の活動報告》

7月6日(日)

かき氷を食べる!

7月13日(日)

プール遊び

7月20日(日)

キャンプ・ソングを歌おう!

7月21日(月)～23日(水)

共同子ども能勢キャンプ

7月30日(水)～8月3日(日)

共同子ども沖縄キャンプ

《8月の活動予定》

教会学校は8月24日(日)まで夏休み
です。

8月31日(日)

お土産パーティ

大切な贈り物・津門川 72

“ 津門川掃除に参加するようになって・・・ ”

津門川の川掃除に参加するようになって、4年が過ぎました。最初の頃は川に入ることはやっぱりちょっと抵抗があったのですが、最近では川に入ることが楽しくてしょうがありません。特に川に降りて、その目線で見ると街の景色は、地の底から上を見上げるようで、普段の街の景色とは全く別物で、それが何ともいえない素晴らしさです。また、足元を歩き交う小魚や、虫たちを間近に見る機会にも恵まれ、その瞬間は子どもの頃に戻る気がします。もちろん、私の子どもの頃は、近所にある自然といっても、そんなに美しいものがあ

るわけではなく、せいぜい近くのドブ川でザリガニを釣るといったことくらいでしたが・・・。そういう意味では、街のど真ん中に、これ程豊かな自然が息づいている津門川がある、ということは、本当に素晴らしいことだと思います。そして、その自然が、商店街、自治会、そして子どもたちによって守られているということが、本当に価値あることだと思います。今後も、この活動が続いていくことを願います。そして、より多くの人たちがこの活動に参加してくださることを祈ります。

(大藪 朝祥)

川掃除のご案内

毎月第1日曜（雨天の場合は翌週の日曜日）に津門川の川掃除を行なっています。

参加する方は午後12時過ぎに幼稚園園庭に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、川沿いの道のゴミ拾いをするグループに分かれて掃除を始めます。幼稚園前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園に戻り、簡単な昼食をみんなで食べて、川掃除スタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは5つポイントがたまると、にしきた商店街で使える金券1000円と交換します。

次回の川掃除は9月7日です。

まいのなんでも案内

暑いですねー。髪の毛引きちぎりたくなるくらい暑いです。でもバツサリ切る勇気はないので、毎日お団子にして乗り切ってます。あぁーもう！さて突然ですが、私、世界で一番美しい武器は日本刀だと思います。特に刃の部分。・・・て言うとは何か危ない子みたいですが、別に刃物が好きなわけじゃないです。物として、ていうか美術品として、て感じです。全然専門的なことはわかんないんだけど。初めて美術館で本物の刀を見たときは（勿論ガラスケース越し）衝撃を受けました。鉄のかたまりだとも、傷つけるための道具とも思えなくて、ただただ綺麗だと思いました。

それから早10年弱。とうとう本物の日本刀を触ってきました。以前、映画のエキストラで友達になった人のお父様が研師で、岩倉で研師をやっている弟弟子のところへ連れてってくれるという約束をしていたのです。（「刀の話にここまで食いつかれたの初めて」てびっくりされた（笑）そして、つい先週、田んぼの水も生ぬるく、オタマジャクシが茹だるんじゃないかという暑さの中、件の研師さんのお家にお邪魔してきました。普通の民家なのに、一室が仕事場（研ぎ部屋）。客（私たち）の来訪に、はしゃいで部屋を覗いてくる、可愛い盛りのお子さん。まだ三十代で

あろう研師さんの足袋にこっそり萌える私。何故か仕事場に貼ってある、近藤勇と土方歳三のポスター。

「日本刀の本物を触ってみたくて・・・」なんていう、ミーハー根性丸出しのことを言う私に、研師さんは次々と、金庫から出した刀や脇差を見せてくださいました。鎌倉時代のものから江戸後期のものまで、およそ6振り。「はい」と渡される刀はどれも、落とさないように持つので精一杯。重さもあるし、緊張もあるし。やっぱり本物は綺麗。迫力。銀色の部分は曇りが無く本当に鏡みたいで、浮かび上がった波紋も、くっきり見える。「試し切りで人の胴を2体切ったよん」なんて物騒なことが書いてあるものもありましたが、現代まで綺麗な状態で伝わってきている刀は、大体はそんなに使われていないそう。刃物として切る、というよりは、骨をぶった切る、という目的のため、漫画などで見る、紙を置いただけで切れる！なんてことは全くないそうですが、それでも刀は刀でした。一振りの刀が作られるまでには、刀鍛冶！研師！ハバキ師！鞘師！・・・というように、一つ一つの部品に専門の人間がいて、1年ほどかかるということ。「ハバキ」なんて、刀身と柄の間の、本当に小さな1部品なのに。

研師さんが、なかなか忌憚なく

喋ってくれる方だったので、色々聞いて困らせました(笑)。元々刀が好きで好きで研師になった、というわけではなく、就職先の一つとして探した、という異色の経歴の持ち主でもいらっしたのですが、「ああ、和泉守兼定(土方歳三の愛刀の兄弟刀)、こないだ依頼されて研いだよー」なんてさらりと言ってしまう。本当、研ぎも伝統芸能の一つなんだな、という感想を持ちました。研ぎ(内曇砥)のための砥石が京都の一部でしか取れなくて、もうなくなりそうらしいです。地層の関係で、人工的に作ることも不可なんだとか。どうなってしまうんだろう……。西洋の刀は「突く」ため、刃自体に美しさを求める事もなかったため、(鞘に宝石を飾り立てることはあっても)、研ぎの技術も確立せず、日本刀にあるような美しさや気品はないのです。西洋史やってる人間が言うのも何ですが。

ていうかね、私元々和物大好きなんですよね。刀だけじゃなくて、着物とか歴史とか。しかも、できるだけ本格的なものが。なんで茶道も華道も書道も剣道も習わずに、ここまで来てしまったのか、自分でも謎なくらい。まあ茶道は大分前、体験教室で、お茶をたてる時に茶筌(竹製の泡だて器の小さい版みたいな道具)の先を、思いっきり曲げたっていうトラウマがあるからだと思います。あ

あ勿体無い。どれか一つでもやれば今頃は和撫子として暮らせたでしょうに。ということはまずないと思いますが。その内、身だしなみとして、最低限のルールぐらいは勉強します。皆様も夏は浴衣で涼んで、日本らしさを満喫してはいかがでしょう。

(追記:この原稿、ちゃんと先月に書いてたんです本当は。何故か、私のメールは携帯でもPCでも共同教会のアドレスにはじかれて、届かなかつたらしくて……。先々月、自信満々で「続けます」とか言った矢先に休載で申し訳ありませんでした。)

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

7月21日～23日は、能勢町の大阪府立青少年野外活動センターでの、教会学校のキャンプでした。小・中・高生112人、スタッフ・準スタッフ24人、合計136人が参加しました。炎天下、バス停からキャンプ場まで歩くにあたって、子どもたちの体調のことで心配しましたが、木陰を見つながら、なんとか歩きとおすことができました（昨年8月工作中に熱中症で倒れたNさんは、6月末に亡くなりました）。キャンプの参加者の約半数が小学校1、2年生で、そんな1、2年生のけが人が続出することになりました。斜面に設けられたテントへの上り下りを走って、倒れた時のすり傷が大半ですが、それにしてもケガ人が多いキャンプでした。

参加者が多いわりには、スタッフの数が限られていて、目が行き届かなかったことも、原因の一つかなとは思っています。このキャンプでは、自分で食費分を負担する、無償で働くスタッフによってなっています。子どもたちを指導するのではなくて、“子どもたちと生活する3日間がおもしろい”という、スタッフも参加者の1人であるのがこのキャンプです。そんなスタッフが得られるか得られないかで、四苦八苦して今年のキャンプの実現にこぎつけることができました。

(K)

てぬぐいブームです 能勢キャンプで去年まではスポーツタオルを首に巻いていましたが今年ではてぬぐいにしました。かさばらないし汗の吸収もよくて～今色んな柄が出てても可愛いんです 車の座席のヘッドカバーにもしたりマイブームのてぬぐいです。

あつーい夏！みなさまお体お気をつけてお過ごしくださいませ…

(N)

先日、キャンプに行ったときに生まれて初めて「満天の星空」を見ました 流れ星まで見ることができて、感動!!

家からも星は見えますが、周りが明るいのでな

かなかたくさんは見ることはできません。夏休み、出かけた先でいろんな星空を楽しみたいと思っています

(Y)

今年も沖縄へ子どもたちと行ってきました。辺野古の海でまたミナミコメツキガニに会えました。人が少しでも近づくと警戒してクルリと回りながら砂の中にもぐってしまう紫色のこのカニは暫くの間ジッと動かずに立っているとそーっと現れます。自分の足元から出てくるのをみると感激して思わず静かに叫んでしまいました。プチプチと音を立てて砂から出たり隠れたりするのを待ってる時間がとても心地よく、いくらでもその場所にいれそうでした。

そんな海がいつまでも変わらずありつづけるといいなあと思いました。

(I)

宿泊保育そしてほしまつり、大きな行事がいろいろあった7月。細かいところでの反省もいろいろある。内輪では、それ、なんてことという「激怒」もいろいろある。でもとにかくそれらの生活が、通常では想像できない公同の子どもたちの時間が少々のことはあれこれあるにせよ、無事に終えられ多くの喜びを届けていただいていること、これは「奇跡」だといつも思っている。あたりまえではないのだ、もちろん多くの努力もあり応援もあり、でもひとつひとつを大事にしながら今日が終わったことを感謝する、そのささやかな積み重ねをこれからも続けていける日々であるように祈らずにはいられない。

(J)